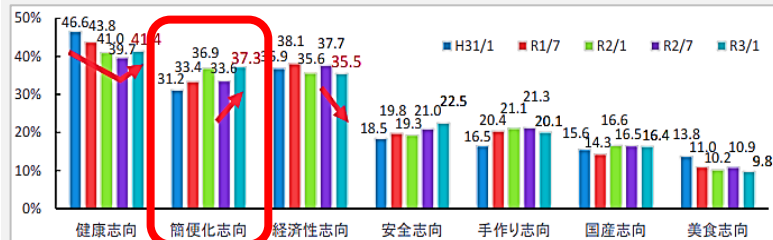


労働人口減への対応！AI等による サケ類小骨自動除去装置開発

- R4 ～ R6年度 - 成長型中小企業等研究開発支援事業（経済産業省）
愛媛県産業技術研究所 技術開発部 研究員 清家 翼

研究開発の背景

骨なし魚の需要は高く、特にサケ類は消費量が多い



食の志向の変化表（資料：財務省「貿易統計」）

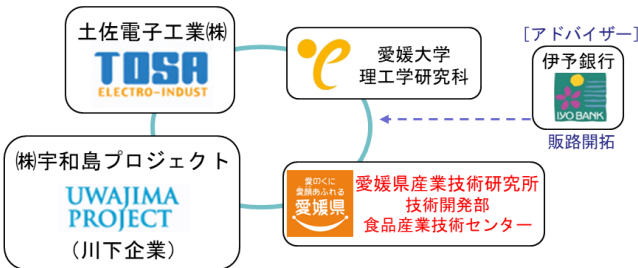
小骨の除去作業は、人による手作業
→丁寧な作業で品質保証！

しかし・・・

水産加工業界は慢性的な人手不足！！



開発連携体制



特徴

- バイオイメージングで骨が光る
- AIで骨を検出
- ステレオカメラで骨を検出
- 独自構造の爪で骨を掴む

新技術の融合



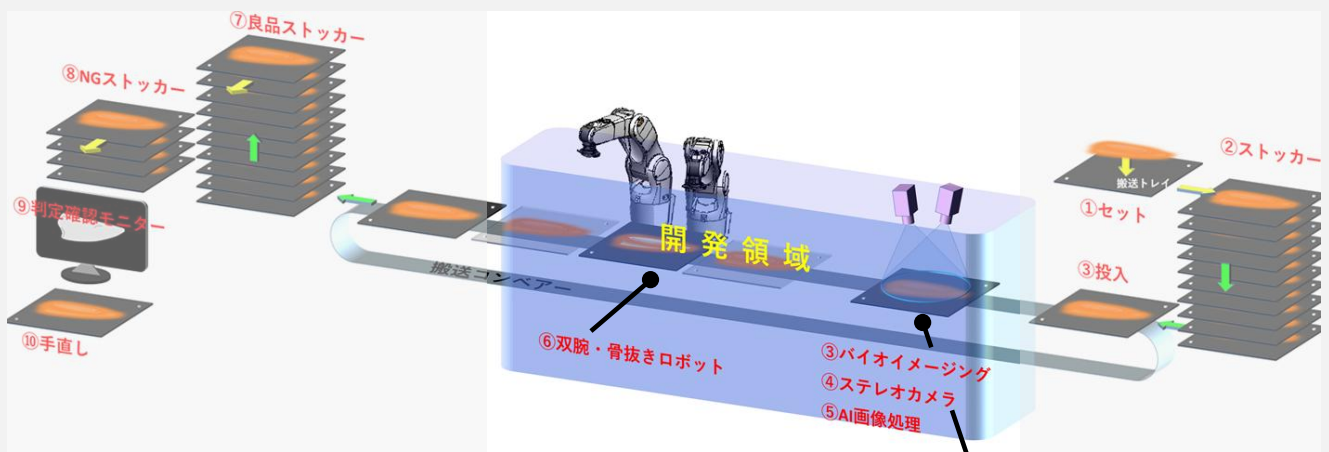
研究概要

バイオイメージングで
サーモンを撮影

AIで小骨の位置を
検出

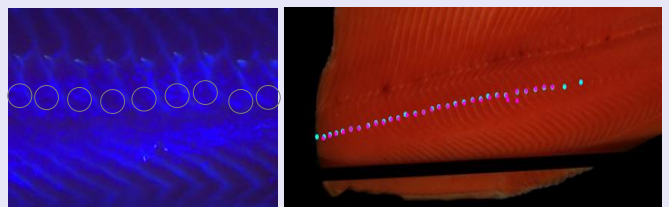
ステレオカメラで
小骨の高さを把握

双腕ロボットアーム
で骨抜き



日テレNEWSの
2次元バーコード

複数の画像処理技術を転用することで、
骨の位置を正確に検出



2月に取組みがTVで放送されました。

本研究は、令和4～6年度成長型中小企業等研究開発支援事業（経済産業省）により実施しました。